

# 世田谷で、40年。

2021年、新型コロナウイルス感染症の流行が続いています。今までにない感染症は、森林開発が進み野生動物が住処を追われたため、気候危機の影響で北極の永久凍土が溶けて発生するともいわれています。

私たちは、40年前から食の安全を求め、石けん運動から始まり、水とみどりを守る活動やリサイクルなどの環境問題に取り組んできました。

いち早く「気候非常事態宣言」をした世田谷区は、むかし「水とみどりの世田谷」といわれ、湧水が100か所もありました。生活者ネットワークは、国分寺産線をはじめとする世田谷の貴重なみどりを守り、グリーンインフラの充実と「みどり33」目標達成のための確実な施策を求めています。

オンラインおしゃべりサロン@caféこんちえる

## 希望をもって生きるまち ～認知症とともに～

ZOOM  
配信



大熊由紀子 Profile  
科学ジャーナリスト。朝日新聞社  
論説委員を経て国際医療福祉大  
学大学院教授。

11月25日(木) 14:00～15:30

【講師】大熊由紀子先生  
【コーディネーター】高岡じゅん子  
【参加費】無料

【お問合せ/お申込み】 ☎03-3420-0737 setagaya@seikatsusha.net (世田谷・生活者ネットワーク)

世田谷区で昨年成立した『世田谷区認知症とともに生きる希望条例』を、暮らしに活かしていくため、一人ひとりのできることを地域福祉の視点から大熊先生にお話しいただきます。後半は、認知症とともに生きるまちづくりについて対話形式で考えます。

参加希望の方は、世田谷・生活者ネットワークにメールでお申し込みください。後日、参加URLをお送りします。

オンライン  
上映会

## 大平農園 405年目つなぐ

森信潤子監督作品

12月4日(土) 13:30～15:30

※お好きな場所からオンライン参加 (Zoom)

参加費  
無料



【申込締切】11月末

【お問合せ/お申込み】

setakatte@gmail.com

【主催】生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会

住宅地のまんなか、世田谷区等々力で400年続く大平農園は、農薬禍に遭った先代が「土づくりは堆肥づくり」と始めた有機農業の伝承地です。多くの人に関わって農園が続けられ、生活クラブの組合員も古くからつながっています。自然が循環するやさしい農法、ていねいに農作物を育て自然と向き合う人々、そして直面する課題……、大都市に暮らす私たちに、いま必要なことはなんでしょうか？食や農に関心を持つすべての人に鑑賞してもらいたい映画です。

### カンパをお願いします

生活者ネットワークの活動は、カンパとボランティアで支えられています。カンパは、100,000円からいくらでもいつでもOKです。どうぞよろしく願いいたします。

【ゆうちょ銀行】  
世田谷・生活者ネットワーク  
記号)00110-1-765709  
店名)108 普)0765709

世田谷・生活者  
ネットワーク

生活者ネットワークは市民と議会・行政をつなぐパイプ役として、地方議会に議員を送りだしています。

生活者  
せたがや

【編集・発行】2021年11月10日号  
世田谷・生活者ネットワーク 代表/山木きょう子  
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷1-16-16安藤ビル301  
TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744  
email: setagaya@seikatsusha.net  
http://setagaya.seikatsusha.me

【写真】馬事公苑前けやき広場のけやきの木



世田谷区議会議員  
金井えり子



世田谷区議会議員  
田中みち子



世田谷区議会議員  
高岡じゅん子



都政担当政策委員  
関口江利子



前都議会議員  
西崎光子

暮らしの中での  
困りごとなど、  
お気軽にご相談  
ください。

3 せたがや生活者ネットワークのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

2 議員報酬は市民の政治活動資金に

3 選挙はカンパとボランティアで

☎ 03-3420-0737

世田谷・生活者ネットワークHPからもお問い合わせいただけます。

9月15日～10月19日まで、第3回定例区議会が行われ、新型コロナウイルス感染症対策として在宅療養者支援の強化や検査体制の維持などのための補正予算他、議案すべてに賛成しました。決算特別委員会では、昨年度のオリンピック関連に不必要な支出は行わず、区民の命と生活を守ることに集中したことを確認し、決算認定に賛成しました。今後、各地区のまちづくりセンターの機能を高め、区民の頼りになるワンストップ窓口を実現することなどを求めました。一般質問および決算特別委員会の報告をします。



区民生活常任委員会  
DX推進・公共施設整備等  
特別委員会

### 未来に向けて「ジェンダー主流化」を

世田谷区は次期基本計画につながる「未来につながるプラン」をまとめようとしています。この機会に、全ての政策を男女平等／ジェンダーの視点で見直し、女性が安心して子どもを産み育てやすい環境をつくるよう提案しました。区長から、災害分野や福祉分野などの各分野計画も含め、「ジェンダー主流化」を

反映するよう指示し進めるとの答弁を得ました。2021年10月男女共同参画推進プランのパブリックコメントが実施されました。今後も議会で皆さんの声を活かしていきます。



成城学園前駅フラワ－遊説

### プラスチックごみゼロを目指して

国会で成立した「プラスチック資源循環促進法」の主旨に合わせた、世田谷区の分別変更を求めました。世田谷区では、ペットボトル以外のプラごみの集積所回収をしませんでしたが、分別の変更について検討を開始するとの回答を得ることができました。来年度の清掃リサイクル審議会での検討に向け、区民委員の募集が始まる予定です。作業室内にダイオキシンが漏れることで問題となった世田谷清掃工場の建替計画の説明も始まっています。この清掃工場の敷地を、プラスチック資源循環に役立てるよう提案しています。

### 手話などで確実に情報を伝える

耳や目に障がいのある方は、災害時の情報手段が限られるため避難が遅れ、場合によっては命を落とすこともあります。平時からスムーズなやり取りができるよう

### 子どもたちの健やかな育ちと学びの保障を



文教常任委員会  
スポーツ・交流推進等  
特別委員会

にすることが非常時にも役立ちます。聴覚障がい者の独自の文化である手話の普及啓発を進めるべきです。それぞれにふさわしいやり方で命に関わる情報が確実に届くよう、「手話言語コミュニケーション条例」の制定を求めました。

夏休み中に食を提供する子ども食堂では、困難を抱えた子どもと繋がるケースがあります。実例として、私が関わっている子ども食堂では「今日食べるものが無い」といった相談があり対応しました。給食が1日の栄養源になっている子どもは存在していますが、大変見えにくいものとなっています。子どもたちの健やかな成長には、学校給食は重要です。感染防止対策として分散登校や休校の場合であっても、必要とする子どもに栄養バランスのとれた食事が摂れるよう工夫を凝らし、食の提供を維持すべきと求めました。

どんな家庭環境であっても学ぶ権利、食べる権利など一人ひとりの子どもの育ちを保障する十分な支援体制を訴え続けていきます。



### 性暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないために

世田谷区内には、学校向けの図書や教材を製作出版し、人権教育としての性教育を推進してきたアーニ出版(共同代表:北沢杏子さん)があります。

先般、この教材や書籍などを世田谷区へ寄付して下さる申し出がありました。私たち生活者ネットワークでは、幼少期からの性教育の重要性を訴えていきます。生命の誕生のすばらしさやプライベートゾーンの大切さを教える素晴らしい数々の教材を活用していくべきです。そこで、イベントでの活用や専用コーナ



アーニ出版の本



北沢杏子さんと懇談する保坂区長

ーの設置、教育委員会と連携した有効な活用を求めました。昨年、国は「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を決定しており、この方針を踏まえた協力が求められています。決算特別委員会では、ただの周知に終わらせず、学習指導計画のなかに、性暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないために、性教育をきちんと位置付ける必要性を訴えました。

来年度から「命の安全教育の手引き」に従って取り組んでいくとの答弁を引き出すことができました。



### 新型コロナウイルス感染症、区民の不安に寄り添った対応を



福祉保健常任委員会  
地域行政・災害・防犯・  
オウム問題対策等特別委員会

千葉県でコロナ陽性で自宅療養中の妊婦が病院の受け入れがなされず、一人で出産し赤ちゃんが亡くなった痛ましい出来事がありました。墨田区では、妊婦が緊急入院できるよう専用病床を確保し、保健所から直接要請できると報道されています。世田谷区のHPでは、妊婦への情報は、ワクチン接種のみです。「コロナ陽性になった時出産が重なったら?」「濃厚接触者になったら?」「母と新生児は一緒に入院できるの?」「重症化したら救急搬送は?」多くの不安の声から質問しました。「区内の周産期・小児医療には、44床の専用受け入れ先があり、区も補助を行っている、妊産婦への情報発信は大切、対応していく」との回答を得られました。感染

### それぞれの必要にあわせた安全な災害時の避難について



爆発といわれた8月には自宅療養者の急変、濃厚接触者でもPCR検査が受けられない事態もありました。健康観察と漏れない連絡体制、保健所・医師会・地域医療の連携強化を求めました。コロナに限らず、区民に寄り添った情報提供、対応の必要性を訴えました。

災害時、ひとり避難が難しい方の「避難行動要支援者支援プラン」の素案ができました。これから、その人に合わせた個別避難計画を作っていきます。現状では、区と町会自治会などとの協定は半分程度しかありませんが、災害時には、地域・近所の人が一番力になるはずです。近くにいる支援者を増やし、町会自治会だけに責任を押し付けず、みんなで助け合える避難行動になるよう地域との連携を求めました。

長期の避難になった場合の福祉避難所(高齢者・障がい者)、母子避難所について、聞きました。有料老人ホームなど新しい施設ができる際、協定を結んで避難所の数を増やし、訓練や福祉避難所同士の情報共有もしているとのことでした。

また、ペットの避難について、世田谷区では、「各避難所でペット同行避難を受け付けます」としていますが、実情は準備のない避難所が多くあります。他自治体ではペットと飼い主専用の同伴避難を行っています。区でも動物関係の専門学校、大学などと協定を結び場所を確保し、ペット同伴避難をすすめるよう求めました。在宅避難が基本ということはあるかもしれませんが、いかなる災害があるかわかりません。その時、その人、その状況に合わせ、安全に避難が出来るよう区も私たちも準備していく事が大切です。

